

平成 28 年度読書週間事業 いわき総合図書館 企画展



写真でみる

いわき市誕生



いわき市立いわき総合図書館

いわき市平字田町 120 ラトブ 4・5 階

TEL 0246-22-5552

<http://library.city.iwaki.fukushima.jp>



はじめに

平成 28 年度の読書週間事業として企画展「写真でみる いわき市誕生」を開催いたします。

いわき市は、昭和 41(1966)年 10 月 1 日、14 市町村の大同合併によって誕生し、今年で 50 周年という大きな節目を迎えました。

日本経済の高度成長、石炭から石油へのエネルギー革命という大きな時代のうねり、さらには、合併する各市町村の思惑の違いなどがあって、全国に例のない大合併への道のりは、決して平坦なものではありませんでした。

まちの姿は時代とともに変化しますが、まちの発展や人々の幸せを願う気持ちはいつの時代も同じです。

今回の展示を御観覧いただき、先人たちの営みに改めて思いを致し、いわきの将来について考える機会にさせていただければ幸いです。

いわき総合図書館長 夏井 芳 徳

2度の大規模合併を経て、昭和41年、いわき市が誕生

昭和41(1966)年10月1日、14市町村(平市、磐城市、勿来市、常磐市、内郷市、四倉町、遠野町、小川町、好間村、三和村、田人村、川前村、久之浜町、大久村)が大同合併し、当時としては日本一広い面積を持ついわき市が誕生しました。

この合併に先駆けて、いわき地方では、2度の大規模な町村合併が行われました。明治22(1889)年の「市制町村制」(「明治の大合併」)と、昭和28(1953)年の「町村合併促進法」に基づく合併(「昭和の大合併」)です。この2度の合併を経て、いわ

き地方では、昭和30(1955)年までに5市4町5村の市町村が形成されました。

日本の高度経済成長期の昭和30年代から40年代は、いわき地方にとって激動の時代となりました。明治時代から日本の近代化を支えてきた石炭産業が、エネルギー革命により斜陽化の道をたどる一方、昭和39(1964)年3月には新産業都市に指定され、工業化が進みました。この大きな転換期に、地域の一体的な発展を願っていわき市が誕生したのです。



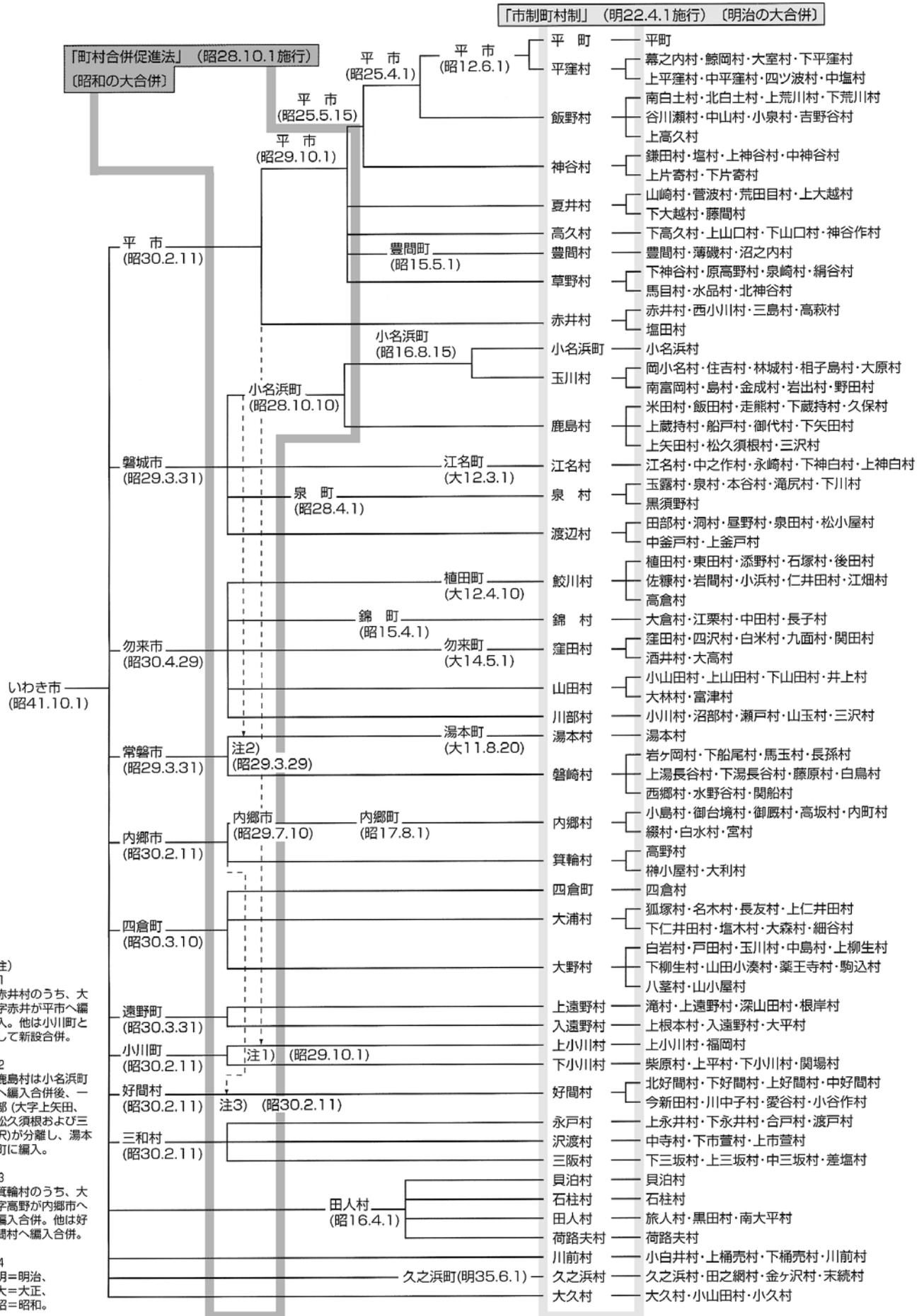
【図1】「明治の大合併」直後(明治22年4月)のいわき地方の行政区分



【図2】「昭和の大合併」(昭和30年前後)のいわき地方の行政区分

『未来へつなぐ「いわき」ものがたり』(いわき市 2016)より

いわき市合併の変遷



『輝くいわきの人・暮らし・まち』(いわき未来づくりセンター 2006)より

【合併を知るキーワード①】 新産業都市

昭和 30 年頃より始まった高度経済成長が進むなか、いわき地方にとって進路転換となる重要な国の施策が相次いで示されました。

昭和 35(1960)年、池田内閣のもと「国民所得倍増計画」が閣議決定され、全国で急速な経済成長が進みました。しかし、一方で人口、産業の過度集中や地域格差が激しくなりました。

これを是正するため、地域拠点開発計画が具体化し、「新産業都市」という位置づけがされるようになります。そして昭和 37(1962)年 5 月、その地方の開発の中核となる新産業都市の建設を促進し、ひいては国土の均衡ある発展、国民経済の発展に資することを目的とした「新産業都市建設促進法」が公布されたのです。

新産業都市の指定を受ければ、国の財政上の優遇措置や社会資本に対する財政投資、工場進出による地域経済の活発化という波及効果も期待できるため、全国各地から指定希望が相次ぎ、その数は 44 か所にのびりました。

福島県ではいわき地区の他に、郡山地区も指定に名乗りをあげていましたが、1 県から 2 か所の指定は困難なため、「常磐・郡山地区」として一本化し、昭和 39(1964)年 3 月に新産業都市として正式決定しました。

いわき地方が新産業都市指定を目指した背景には、工業化の著しい磐城市や勿来市などでは更なる発展策として、相次ぐ閉山により地域疲弊が明らかな産

炭地域を抱える常磐市や内郷市、好間村などでは救済措置として、それぞれ期待が寄せられたのです。



新産業都市内定記念パレード・平駅前
(昭和 38 年 7 月 いわき市所蔵)



新産業都市内定記念パレード・平本町通り
(昭和 38 年 7 月 いわき市所蔵)

【合併を知るキーワード②】新市名

合併条件をめぐる各市町村の主張は強く、合併協議は難航を極めました。そのひとつが、新しい市の名称をめぐる協議でした。

合併時期の昭和 41(1966)年 6 月 1 日（合併協議が難航したため、後に 10 月 1 日に変更）まで 1 年を切った昭和 40(1965)年 7 月になっても、新市名をめぐる議論は平行線を辿りました。そのため、同年 8 月から 9 月にかけて、5 回にわたる集中審議が行われ、そのなかで新市名案として、**磐城平市**（平市の案）、**小名浜市**（磐城市の案）、**勿来市**（勿来市の案）、**常磐市**（常磐市の案）、**南東北市**（内郷市の案）、**石城市**（田人村の案）の 6 案が出されました。

しかし、依然として合意に達することができず、昭和 41 年 1 月、福島県が調停案として「いわき市」を提示することになります。“温泉”という固有の財産を持っていた常磐市が、最後まで反対の姿勢を崩しませんでした。同年 3 月に調停案を受け入れたことで、新市名をめぐる議論に決着がつけました。

合併協定書によれば、市名「いわき」選定の理由は、常磐地方は古来、石城、岩城、磐城の呼称がつけられており、いずれも文字こそ違えどすべて「いわき」と読み、当地方にとって歴史的に、また、住民生活上非常に親しみ深い読み名であること、仮名書は読み方の混乱をさけるためであることが記されています。

また、聖徳太子十七条憲法の「和をもつて貴となす」(以和貴)の条を音読みすれば「いわき」となる、

とも書かれており、新市の一体的発展を象徴する意味も込められたのです。



難航する合併協議(昭和 40 年頃 長谷川達雄氏撮影)



県議会がいわき市入りして特別委を設け早期合併を促し調整。説明に立つ大和田弥一 平市長。

(昭和 41 年 1 月 長谷川達雄氏撮影)

【合併を知るキーワード③】新市庁舎の位置

新市名とともに、新しい市庁舎をどこに置くかについても協議が難航しました。

昭和41(1966)年10月にいわき市が発足しましたが、合併前の新産特別委員会で「決定は合併後」と先送りされたままでした。合併協定書には、仮庁舎を「平字三崎1番地」(現在の平中央公園)に置くだけあり、実際の建設整備は目途さえ立っていませんでした。

仮庁舎は、県立平商業高等学校の旧校舎を利用しました。しかし、建物は昭和10年代初めに建設されたもので、老朽化が著しいことから早期の新市庁舎の建設が求められました。

新市庁舎の位置については、市議会の庁舎建設調査特別委員会で、慎重に検討が重ねられました。その結果、候補地として①仮庁舎付近、②福島高専付近、③鹿島小学校付近の3案に絞られました。

このなかから、仮庁舎付近が最も適切であるとし、昭和45(1970)年2月臨時会で、仮庁舎の道路を隔てた隣側の県立平工業高等学校の敷地およびその周辺に、新市庁舎を建設することが正式決定しました。

起工式は、昭和46(1971)年6月に平市民会館で行われ、昭和48(1973)年3月20日に落成しました。完成した新市庁舎は、地下1階、地上8階(塔屋2階)建て、床面積約2万3,300㎡、議会棟は別棟の2階建てという近代的建築物となり、現在もいわき市政の中心として活用されています。



旧平商施設を利用した仮庁舎(昭和48年頃 いわき市撮影)



旧平商施設を利用した仮庁舎(昭和44年9月 いわき市撮影)



市庁舎落成式(昭和48年3月 いわき市撮影)

昭和 40 年代の市庁舎付近



手前が旧平商施設を利用した仮庁舎、
奥は市庁舎予定地の平工業
(昭和 42 年 長谷川達雄氏撮影)



高みから見た平支所、後方には建設中の
市庁舎が見える
(昭和 47 年 いわき市撮影)



完成した市庁舎、平市民会館、平市街
を北東から見る
(昭和 48 年頃 いわき市撮影)

合併 14 市町村の横顔

◆平市

明治 16 年に町制施行、昭和 12 年に平窪村と合併して市制施行。その後、昭和 25 年から 30 年にかけて、飯野村、神谷村、豊間村、高久村、夏井村、草野村と赤井村の一部を合併。

昭和 40 年には、人口 7 万 921 人、世帯数 1 万 6,650 世帯、面積 109.79 平方キロメートルでした。

古くは磐城平藩の城下町として、明治時代以降はいわき地方の商業、行政、経済、教育文化、交通の中心として発展し、県内有数の経済力を有していました。



平駅と平市街地(昭和 27 年 7 月 松本正平氏撮影・松本正夫氏提供)



小名浜本町通り(昭和 43 年 3 月 いわき市撮影)

◆磐城市

昭和 28 年 10 月に小名浜町、鹿島村、昭和 29 年 3 月に江名町、泉町、渡辺村と合併して磐城市となりました。

昭和 40 年には、人口 6 万 4,899 人、世帯数 1 万 4,610 世帯、面積 84.63 平方キロメートルでした。

福島県の海の玄関である国際港・小名浜港があり、臨海工業地帯には大小の工場群が相次いで進出しました。また、小名浜、江名、中之作の大型漁港を持ち、漁業のまちとしても全国に知られていました。

◆勿来市

昭和 30 年 4 月に植田町、錦町、勿来町、川部村、山田村が合併し勿来市となりました。

昭和 40 年には、人口 4 万 6,731 人、世帯数 1 万 928 世帯、面積 104.64 平方キロメートルでした。

常磐炭田より生産される石炭を有効活用した常磐共同火力勿来発電所や、呉羽化学工業などの大企業が進出し、県内有数の工業地帯となりました。また、勿来関一帯は県立自然公園に指定され、多くの観光客が訪れていました。



勿来市役所庁舎上空から上中田方面を俯瞰
(昭和 35 年 3 月 長谷川達雄氏撮影)

◆常磐市

昭和29年3月に、湯本町が磐崎村と鹿島村の一部を編入合併して常磐市となりました。

昭和40年には、人口4万671人、世帯数9,778世帯、面積48.20平方キロメートルでした。

常磐炭田の中心都市として発展しました。また、湯量豊富な常磐湯本温泉を有し、常磐線唯一の温泉郷として全国から多くの観光客を集めていました。



常磐湯本温泉街(昭和44年7月 いわき市撮影)

◆内郷市

昭和29年7月、内郷町が単独市制施行して内郷市となり、さらに昭和30年2月、箕輪村の一部を編入。

昭和40年には、人口3万5,242人、世帯数8,723世帯、面積31.60平方キロメートルでした。

常磐炭田発祥の地で、“炭鉱のまち”として栄え、綴(現内郷)駅は貨物取扱量で全国第2位になったこともありましたが、昭和30年代前半の相次ぐ閉山で、人口減少が続きました。その後、炭鉱のズリ山跡地や国道6号沿いを中心に住宅化が進み、ベッドタウン化していきました。



内郷市街 綴炭住から白水方面を俯瞰
(昭和30年頃 板井文男氏撮影)

◆四倉町

昭和30年3月、四倉町、大浦村、大野村が合併して四倉町となりました。

昭和40年には、人口2万226人、世帯数4,468世帯、面積63.63平方キロメートルでした。

古くから漁業が盛んで、四倉港は主として北洋サケ・マス漁およびサンマ漁の基地となっていました。明治時代からは磐城セメント、日鉄八釜鉱山などを中心とした鉱工業が発達し、商業も盛んとなりました。



四倉港 北洋サケ・マス独航船の出漁(昭和43年4月 いわき市撮影)

◆遠野町

昭和30年3月、上遠野村、入遠野村が合併して遠野町となりました。昭和40年には、人口9,208人、世帯数1,884世帯、面積104.46平方キロメートルでした。

御斎所街道に沿う上遠野地区は、古くから交易の中継地として栄えました。産業は稲作をはじめ、和紙製作、葉たばこ、こんにゃく栽培や林業が盛んでした。



上遠野市街を東側から見る・交通安全協会上遠野分会パレード
(昭和54年5月 いわき市撮影)



小川郷駅前（昭和30年代 国府田英二氏提供）

◆小川町

昭和30年2月、赤井村(大字赤井を除く)、上小川村、下小川村が合併し町制施行して小川町となりました。昭和40年には、人口8,837人、世帯数1,924世帯、面積112.42平方キロメートルでした。

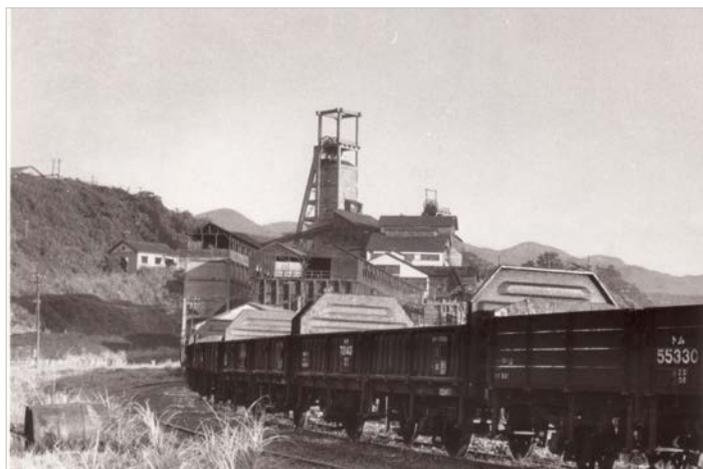
町の北部には阿武隈山地が連なり、町内を南北に流れる夏井川沿いに磐越東線、磐城街道が通じています。夏井川溪谷県立自然公園内のニッ箭山や背戸峨廊、夏井川溪谷は風光明媚な観光地として知られています。

◆好間村

明治22年に北好間村、下好間村、上好間村、中好間村、今新田村、川中子村、愛谷村、小谷作村が合併し、好間村として村制施行。昭和30年2月、箕輪村大字大和・榊小屋を編入合併しました。

昭和40年には、人口1万2,465人、世帯数3,144世帯、面積26.67平方キロメートルでした。

村の西部は阿武隈山地に連なり、山縁には大手の古河好間炭礦をはじめ数多くの炭鉱が稼業していました。人口も2万人を越え、一時、日本最大の人口を擁する村となりましたが、エネルギー革命のため相次いで閉山し、人口も減少しました。



上好間、中好間・古河好間炭礦専用鉄道から見た炭礦施設
(昭和44年 いわき市所蔵)

◆三和村

昭和 30 年 2 月、永戸村、沢渡村、三阪村が合併して三和村となりました。

昭和 40 年には、人口 7,054 人、世帯数 1,392 世帯、面積 214.76 平方キロメートルでした。

阿武隈山地が連なり、村の中央部を東西に流れる好間川沿いに国道 49 号が縦貫。産業は、稲作、葉たばこなどの農業、畜産、養蚕、林業が盛んでした。



上市萱の家並み(昭和 54 年 12 月 いわき市撮影)



田人町旅人(昭和 24 年 板津弥吉氏所蔵)

◆田人村

明治 22 年に村制施行し、昭和 16 年 4 月、石住村、貝泊村、荷路夫村と合併しました。

昭和 40 年には、人口 5,744 人、世帯数 1,227 世帯、面積 157.97 平方キロメートルでした。

阿武隈山地が村全域に連なり起伏が多く、東部にある鮫川・高柴ダムは多目的ダムとして下流域を潤していました。山地を利用して杉などの人工造林や牧野の草地造成などが行われ、馬の畜産も盛んでした。こんにゃくは、村の特産品でした。

◆川前村

明治 22 年に村制施行しました。昭和 40 年には、人口 3,483 人、世帯数 682 世帯、面積 116.36 平方キロメートルでした。

村域全体が阿武隈山地に抱かれ、矢大臣山、和田山、鬼ヶ城山、神楽山がそびえていました。産業は、林業が盛んで森林資材の宝庫でした。和田山高原牧場や肉用牛繁殖育成センターでは、牛の放牧が行われていました。



川前駅周辺を遠望(昭和 42 年 10 月 いわき市撮影)

◆久之浜町

明治 35 年 6 月、町制施行により久之浜村から久之浜町へ改称しました。昭和 40 年には、人口 5,780 人、世帯数 1,259 世帯、面積 14.28 平方キロメートルでした。

町域は双葉郡に属し、北境は広野町に隣接。久之浜港は古くから天然の良港として知られており、運輸省所管の避難港にも指定されていました。

観光面では、磐城海岸県立自然公園の波立海岸が有名で、夏は海水浴客でにぎわいました。



久之浜漁港(昭和 42 年 2 月 いわき市撮影)



左から大久村役場、少し奥に大久公民館、右に農業倉庫、遠方には三森山(昭和 30 年代 鈴木俊氏提供)

◆大久村

明治 22 年 4 月、大久村、小山田村、小久村が合併して大久村となりました。

昭和 40 年には、人口 2,620 人、世帯数 509 世帯、面積 38.04 平方キロメートルでした。

村域は双葉郡に属し、北境は広野町に隣接。村の西部には三森山などがそびえ、大久川上流の三森溪谷は観光地として知られています。数か所の鉱泉があり、湯治場として古い歴史を持っていました。

アンモナイトなどの化石が数多く発見されることから、“化石の宝庫”としても有名でした。

いわき市50年の歩み

西暦	年号	主な出来事
1966	昭和41	10月1日 いわき市誕生・開庁式
		10月20日 市長選挙 大和田弥一氏が当選
		11月21日 333人の新市初議会が開催、マンモス議会とも
1967	昭和42	3月1日 国道6号が全線開通
		3月30日 いわき市誕生記念式典を開催
		11月3日 市制施行1周年記念式典を開催 市章・市歌を発表
1968	昭和43	10月6日 大久町でフタバズキリュウの化石を発見
		10月12日 48人のいわき市議会がスタート
1969	昭和44	1月20日 中田横穴を発見（後に国指定史跡に）
		10月1日 常磐線（平一上野）でひたち号が運行
1970	昭和45	4月28日 国道49号（いわき一郡山）が全線開通
1971	昭和46	3月25日 いわき陸上競技場を開場
		8月16日 磐城高校が第53回全国高等学校野球選手権大会で準優勝
		10月1日 市制施行5周年記念市の木・くろまつ制定
1972	昭和47	4月1日 市消防団を発足（14団を統合）
1973	昭和48	3月20日 市庁舎新築・落成式 市の花・つつじ制定
		7月29日 平駅ビル「ヤンヤン」オープン
1974	昭和49	5月4日 こどもの村がオープン
		9月29日 市長選挙 田畑金光氏が当選
1975	昭和50	4月28日 フラワーセンターオープン
		5月2日 市文化センターオープン
1976	昭和51	9月1日 常磐炭礦全面閉山
		10月1日 市制施行10周年記念式典を開催 市民憲章を制定
1977	昭和52	9月12日 市営中央卸売市場を開場
1978	昭和53	5月26日 常磐自動車道の路線発表
		7月25日 平中央公園オープン
1979	昭和54	4月23日 いわきナンバーが登場
		10月3日 水道局本庁舎を開庁

西暦	年号	主な出来事
1980	昭和55	4月1日 磐城共立病院内に救急救命センターオープン
1981	昭和56	10月4日 市制15周年記念いわきおどりを発表
1982	昭和57	4月15日 中国・撫順市と友好都市を締結
		9月27日 いわきニュータウンの宅地分譲開始
1983	昭和58	6月21日 第1回ミスいわき（現サンシャインガイドいわき）コンテスト
		7月2日 名誉市民に総合磐城共立病院元院長・畠山靖夫氏
1984	昭和59	4月28日 市立美術館オープン
		7月4日 名誉市民に詩人・草野心平氏
		10月18日 石炭・化石館オープン
1985	昭和60	1月17日 好間中核工業団地第1期分譲開始
		8月1日 三崎公園にいわきマリンタワーオープン
1986	昭和61	8月10日 秋田県岩城町（現由利本荘市）と親子都市を締結
		9月28日 市長選挙 中田武雄氏が当選
		10月1日 市制施行20周年記念式典
1987	昭和62	4月12日 いわき明星大学が開学し第1回入学式
1988	昭和63	3月24日 常磐自動車道（いわき中央一日立北）が開通
		7月1日 勿来関文学歴史館オープン
1989	平成元	9月27日 常磐湯本温泉が「いわき湯本温泉」に改称
1990	平成2	9月30日 市長選挙 岩城光英氏が当選
1991	平成3	6月1日 海竜の里センターオープン
		8月21日 オーストラリア・タウンズビル市と国際姉妹都市を締結
1992	平成4	11月10日 市のシンボルマーク発表
		11月19日 アンモナイトセンターオープン
1994	平成6	3月28日 いわき百景を選定
		7月25日 いわき市民プールオープン
		12月3日 平駅が「いわき駅」に改称

西暦	年号	主な出来事
1995	平成7	4月1日 21世紀の森公園開園
		4月12日 東日本国際大学第1回入学式
		8月2日 磐越自動車道（いわき一郡山）が開通
		9月4日 国道49号平バイパスが全線開通
		9月9日 ふくしま国体を開催
1996	平成8	7月31日 市の鳥・かもめのイメージキャラクターの愛称が「ミュウ」に決定
		8月10日 映画『釣りバカ日誌8』（いわきロケ）全国公開
		9月1日 いわき市民コミュニティ放送（FMいわき）が開局
		10月1日 市制施行30周年記念式典 市の鳥とイメージソングを発表
		10月1日 市の鳥・かもめ制定
1997	平成9	5月30日 宮崎県延岡市と兄弟都市を締結
		7月25日 観光物産センター「いわき・ら・ら・ミュウ」オープン
		9月28日 市長選挙 四家啓助氏が当選
		10月1日 磐越自動車道全線開通
1998	平成10	4月18日 健康・福祉プラザ「いわきゆったり館」オープン
		7月19日 草野心平記念文学館オープン
		9月7日 小名浜港に外国貿易コンテナ定期航路が開設
1999	平成11	3月25日 常磐自動車道（いわき中央-いわき四倉）開通
		4月1日 中核市へ移行、いわき市保健所を設置
		7月18日 暮らしの伝承郷が開園
2000	平成12	3月28日 国道6号常磐バイパスが全線開通
		7月15日 ふくしま海洋科学館「アクアマリンふくしま」が開館
2001	平成13	10月1日 市の魚・めひかり制定
2002	平成14	3月23日 常磐自動車道（いわき四倉-広野）が開通
		4月15日 ティーワンビルが落成
2003	平成15	4月1日 総合保健福祉センターを開設
		4月12日 いわき南の森スポーツパークを開設

西暦	年号	主な出来事
2005	平成17	3月25日 都市公園・いわき公園完成
		9月11日 市長選挙 榊田一男氏が当選
2006	平成18	4月21日 いわき四倉中核工業団地分譲開始
		9月23日 映画『フラガール』が全国一斉公開
		10月1日 いわき市市制施行40周年記念式典を開催
2007	平成19	3月20日 平市民会館閉館
		10月25日 いわき駅前再開発ビル「ラトブ」オープン
		10月25日 いわき総合図書館開館
		10月25日 いわき駅橋上駅舎が開業
2008	平成20	3月26日 北部火葬場「いわき清苑」を開設
2009	平成21	5月2日 いわき芸術文化交流館「アリオス」グランドオープン
		9月13日 市長選挙 渡辺敬夫氏が当選
2010	平成22	2月14日 第1回いわきサンシャインマラソン開催
		3月25日 いわき駅南口駅前広場が供用開始
		7月14日 「道の駅よつくら港」グランドオープン
2011	平成23	3月11日 東日本大震災発生
		5月31日 小名浜港が国際バルク戦略港湾に選定
2012	平成24	8月11日 「道の駅よつくら港交流館」がオープン
2013	平成25	4月12日 ゆるキャラ「いわきフラ次郎（フラおじさん）」を観光大使見習いに任命
		7月22日 県内初となるプロ野球オールスターゲームを開催
		9月8日 市長選挙 清水敏男氏が当選
2014	平成26	5月28日 体験型経済教育施設「エリム」がオープン
		6月21日 映画『超高速！参勤交代』が全国一斉公開
2015	平成27	3月14日 常磐線特急「ひたち」などが品川駅まで乗り入れ開始
		5月22日 第7回太平洋・島サミットが開催
2016	平成28	7月29日 第3回WBSC U-15ベースボールワールドカップ2016inいわきが開催
		9月10日 映画『超高速！参勤交代リターンズ』が全国一斉公開
		10月1日 いわき市市制施行50周年記念式典を開催

